

第16期 事業報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

法人の名称 特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

1 事業活動方針

不登校ないしひきこもりなどを経験したため、またはその状況を継続しているために、一般的な就職などによる社会的自立が困難になると予想される、または現実に困難になっている青少年（以下 青少年）に対して、それらの状況から脱却する機会を提供し、かつ社会的自立を援助する活動として、社会参加上、重要な共同生活及び模擬的な就業体験の場を提供することに関する事業を行い、各人の個性に応じた社会的自立への機会を獲得することに寄与することを目的に活動を展開していった。

今年度の大きな動きとしては、学童クラブの自主事業化に向けた準備を行った。17名でスタートした学童クラブが、6年間の活動の中で、登録数が105名までになった。開所当時の1年生が小学校を卒業、中学へと進学し、OBとしての活動も始まっている。また、支援を受けていたメンバーが次々にスタッフとなり、格闘するような日々の中で、大きく成長し、**雇用の場、職歴を作り、経験を積む場**になっている。また、**研修生の受け入れの場**としても大きな役割を果たしている。この節目でこれまでの6年間の活動内容を振り返り、改めて学齢期の重要性を感じ、コロンブスアカデミーとして取り組むべきことは何かを話し合い、これまでコロンブスアカデミーが活動の柱としてきた「**生きづらさを抱えた子ども、助けてと言えずに見過ごされていく子どもの育ちを支えたい**」という思いを強くしていった。今年度は補助金事業と自主事業を並行する形で運営をおこなっていたが、目の前にいる保護者や子ども達の必要としていることに合わせて作った自主事業の方が大きくなっていくこともあり、次年度から「**放課後ドラマ ぽによ+**」として自主事業化していくための準備をしていった。

「**おもしろい子（個）を育てる**」というテーマを掲げ、子どもを預けている保護者にも法人の支え手として賛助会員となってもらい、またアクションメンバーとして参加してもらうよう促しを行った。その動きは親と子のつどいの広場 子育てスポットくすくすにも広がっており、子育て支援部門の方向転換が次年度の大きなテーマとなる。

それから、事業計画に掲げた3つの重要課題については以下の通りである。

1. 途切れない支援の形を目指す

子育て期～学齢期～思春期～青年期までの途切れない支援を目指して一つ一つの事業に取り組む。一人を支えるのに多面的な視点を持ち、具体的に今、必要なことは何かを問いながら、K2グループ内のスタッフだけでなく、専門機関との連携や地域の資源を活用しながら、支援の輪を作っていくことを心がけていた。どの年齢、どの段階で行き詰っても相談を受けられるような体制づくりが必要であり、**特に学齢期や思春期の時期の相談**を受けられるように不登校相談の窓口の設置や不登校セミナー、思春期セミナー等を開催するなど相談しやすい環境づくりに努めた。

金沢区での取り組みも、「横浜いろは塾」が2年目に入り、夏からは見学や登録が立て続けに行われ、毎日、子ども達が通ってきて、学習に取り組み姿が見られるようになっていった。同じ建物で、「金沢区青少年の活動拠点 カナカツ」と「寄り添い型事業 横浜いろは塾」を運営していることで、これまでカナカツを利用していた子が横浜いろは塾に入ったり、卒業生がカナカツを訪れることも増えてきて、二つの事業を同じ場所で行っている強みが生かされ、だんだんと形になってきている。また、入居団体との連携も、イベントを通して具体的な関わりをしていくように準備をおこなっていった。

2. それぞれの場の強化

相談・居場所・共同生活・子育て支援・地域の活動拠点の場といったさまざまな部署があるが、今年度は、「自ら責任を負ってチームで取り組む」中での「個々の責任」「それぞれの役割」を考えさせられ、またそれを実践していく中で必要な役割が明確になっていく一年だった。各事業に関わるメンバーも多様になってきており、トラブルも増えてきている。一つ一つの事柄に誠意をもって対応した上で、顧問弁護士や行政書士等への相談や保険対応など法人を守るための体制づくりも同時に並行しておこなっていった。難しいケースに出会い、その中で手探りしながら対応していく時に、やはり「**チーム支援**」ということが重要になり、個人の力量としても、チーム全体の力も蓄える時期になったと感じている。

また、雇用の安定という面でも、社会保険労務士も入って就業規則も実態に即した形で作成することができた。

それぞれの現場では、個々の特性を生かして働けるような環境づくりに努めた。問題やトラブルが起きた時には、振り返りを行い、その経験をその後の活動に具体的に活かしていくこと、これまでの形にこだわらず、必要なところを改善し、よりよい形にしていくことを積み重ねてきた。特に、自立援助ホームやいろは塾は2年間の活動を通して、具体的な実践を重ねて、形を作り上げてきている。

3. 支援の循環

自分が何によって助けられ、何によって支えられたかを考えて、その上で自分が何を助け、何を支えることができるかを考えて行動すること、つまり「**恩を送る**」ということが各現場で実践され、自分たちの不登校・ひきこもり経験を活かして働いているメンバーが増え、彼らが法人の運営を支えている。相談者としてつながったメンバーだけでなく、スタッフやボランティアとして出会ったメンバーもそれぞれができることを持ち寄り、助け合う形を作ることを意識して活動に取り組むことができた。今年度は、**出会った子どもや若者をチームで支援することから発展して「チームのメンバーとして迎え入れる・受け入れる」**ことを意識していた。ぼによ+では、PPA（ぼによペアンレンツアクションメンバー）を立ち上げ、それぞれの状況に応じて、保護者が参加をするという形を作り始めた。また、市民活動支援・相談窓口事業を通じて、件数は多くなかったが、これまで関係機関や関係団体に教わりながら活動を進めてきたことの「恩送り」をも実践していきたいという思いで関わらせていただくことができた。

2 事業内容

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) **社会参加基礎訓練等の場を提供するための寮施設兼生活指導施設の運営**

①**児童自立生活援助事業 自立援助ホーム**

- ・K2ハウス寮、オラシオ寮の2棟を運営。
- ・それぞれの自立を目指して、個別支援計画を作成し、生活面やメンタル面のサポートに加え、就業支援・職場への定着支援を行っていった。
- ・児童相談所の児童福祉司・心理士や関係機関と連携し、ケースカンファレンスや面談や定期的な連絡などを重ね、本人にとってよりよい支援の形を目指し、一人ひとりに対して具体的なサポートを継続して行った。
- ・高校卒業資格や運転免許等の資格取得のサポートを行った。
- ・全国自立援助ホーム協議会の研修や全国大会に参加し、国内の自立援助ホームのホーム長やスタッフとの交流や学びを深めた。
- ・横浜市社会福祉協議会の会員になり、児童福祉部会に毎回出席し、横浜市の関係部署や市内の児童養護施設やファミリーホーム、自立援助ホームなどとの情報交換や関係作りを努めた。
- ・働けない若者の困窮、若年での生活保護の受給といった難しい状況を目の当たりにして、支援の難しさを感じた年でもあった。

日時 通年

場所 K2ハウス寮（横浜市磯子区中浜町）・オラシオ寮（中区根岸町）

主な従事者人員 5名

対象者	義務教育終了後～20歳までの男子で、児童相談所が必要だと認めた者
定員	各寮6名 計12名/月
実績	年間のべ 45名

(2) 青少年とその保護者などに対する相談・支援

①不登校支援

- ・神奈川県から補助を受けて「不登校の青少年と家族の相談事業」を実施した。
- ・日常的な電話相談の対応、有料の個別面談を行った。有料面談よりセミナー参加後に無料面談を希望するケースが多かった。
- ・全3回の不登校セミナーを開催し、参加者には無料面談を行い、次につながるような助言や情報提供を行った。実際によこはま南部ユースプラザの利用やK2グループ内の資源の活用につながるケースもあった。
- ・神奈川県LD協会 山内信重氏、K2インターナショナルグループの金森克雄氏を講師に招き、各分野からの話だけではなく、質疑応答の時間も十分に取って、参加者からの話も聞くことができる会になった。
- ・寄せられた相談について、学齢期のうちに必要な支援につながるような流れを作っていくように意識して丁寧な対応を行った。

日時	火曜日～金曜日 11時～15時（電話相談・個別面談）
場所	横浜市磯子区東町9-9 3階
主な従事者人員	2名
対象者	青少年および保護者、関係者
不登校セミナー	平成26年6月28日（土）・9月27日（土）・2月28日（土）

②よこはま南部ユースプラザ

- ・相談窓口（電話、インターネット、来所）を開設し、当事者や保護者の第一次的な総合相談を受ける相談室の運営を実施。当事者や家族、関係機関からさまざまな相談が寄せられるため、K2グループの中核の相談窓口として重要な役割を果たしていた。
- ・ひきこもり状態からの回復期にある若者の居場所の運営。
- ・週に1回のボランティア体験・社会体験・就労体験のプログラム、就労支援セミナーの実施。
講座：職業人セミナー・ボイストレーニング・ゴスペル・コミュニケーション講座・手芸・スポーツデー・PCセミナー等。
プログラム：ユースの会・なんぷらペーパーづくり・夕食交流会・なんぷら Afternoon Tea 等。
- ・横浜市内5つの区の関係機関、区役所との連携及びネットワークづくりのため、南部地域若者支援連絡会を開催。
- ・3機関連絡会等へ参加し、他機関との連携を深めるよう努めた。

- *事務調整会議： 隔月に1回開催（偶数月の第3月曜日）
- *3機関連絡会： 隔月に1回開催（奇数月の第3月曜日）
- *保護者交流会： 毎月第3土曜日開催
- *南部地域若者支援連絡会： 全3回・平成26年5月29日（木）、10月7日（火）、平成27年3月12日（木）
- *連絡会主催研修会： 平成26年7月30日（水）、12月16日（火）

日時	月曜日～木曜日 11時～19時
	金曜日 11時～21時
	土曜日 相談のみ開所 セミナー・説明会の際は居場所を開所。

場所	横浜市磯子区西町 12-1 号 根岸駅前第二共同ビル 2 階 206・208 号
主な従事者人員	8 名
対象者	青少年および保護者、関係者
開所日数	281 日
来所者数	のべ 8,192 名
相談実績	面接相談 のべ 1,029 件・電話相談 のべ 612 件 インターネット相談 のべ 312 件
社会／就労体験事業参加者	のべ 2,872 名

③訪問事業（メンタルフレンド）

- ・ひきこもり状態にあり、自分では出て来られない、家族だけでは煮つまった関係になっている家庭にスタッフが訪問し、必要な対応をしていく。今年度は相談対応する中で状況が変化したり、解決していくケースもあり、実際の訪問はなかったが、訪問事業があるということで安心感を与えられたという声も多く聞かれた。

日時	通年
場所	コロンブスアカデミー事務局および訪問先
主な従事者人員	2 名
対象者	ひきこもり状態にある青少年やその家族
実績	相談対応のみ

④金沢区寄り添い型学習等支援事業（横浜いろは塾）

- ・金沢区内の生活困窮や保護者が精神疾患を有している等の理由により、養育環境に課題がある家庭に育つ中学生に対して、学習支援・生活支援・総合的な支援を実施する事業である。
- ・見学した生徒は全員、登録し、登録後は、それぞれに自分のペースで通ってきて、学習支援を受け、週に 2 回の基本利用日以外も通ってきて自習に取り組むなど積極的に利用する姿が見られた。特に夏休み前の三者面談で危機感を持つ親子が多く、7 月下旬から利用が増えていった。
- ・対象は生活保護を受けている家庭の子どもだけではないが、大半は保護家庭で、金沢区保護課・子ども家庭支援課と連携しながら、見学対応や生徒の受け入れのための情報共有や準備をおこなった。
- ・子どもの様子や話から子ども自身の課題と共に家庭の課題も見えてきて、担当のケースワーカーからは、横浜いろは塾に通うようになって支援がスムーズになった、正確な状況把握が出来るようになったという話が聞かれるようになった。
- ・受験に向けての学習支援を進める中で、日常の関わりの中や受験後も足繁く通う場にもなっていること、生活支援のおやつ作りには張り切って参加する子がいることから、生活支援の重要性を感じている。また、高校進学後もフォローも必要としているメンバーが多く、いろは塾としてどのような関わりをしていくか、次年度へのテーマになっている。

日時	火曜日～金曜日 15:00～20:00 土曜日 13:00～18:00
場所	横浜市金沢区洲崎町 2-6 5 階
主な従事者人員	3 名
対象者	養育環境に課題があり、支援を必要とする中学生および保護者
開所日数	294 日
登録者数	32 名
参加人数	のべ 1,136 名

(3) 青少年の自立に関する情報提供

①団体の活動の情報発信

- ・ホームページやブログの定期的な更新作業を行い、より新しい情報の掲載に努めた。
- ・団体の活動内容を広く知ってもらうため年2回 KIAORA を発行する。KIAORA はホームページでも閲覧できるようにした。また、地域の各活動場所や連携先にも設置し、活動に興味を持った方に手に取ってもらえるようにした。

日時	ホームページの更新は随時 K I A O R A の発行 2014年9月・2015年3月
場所	コロンブスアカデミー事務局
主な従事者人員	2名
対象者	不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族、 地域の関係機関・関係団体など

(4) 地域で子育てを支える場の提供・運営

①親と子のつどいの広場事業 子育てスポットくすくす

- ・横浜市補助事業として、乳幼児親子が気軽に集える居場所を提供。
- ・親の日常的な悩みや不安を和らげる場、共に育ち合える場として運営をおこなった。
- ・参加する親子が参加者としてだけでなく、運営を支える当事者として育ち、ママサポーター、ママボランティアとして参加する人も増えてきたので、次の世代へうまく引き継いでいけるような流れを作ることを意識して活動を行った。
- ・日常の活動の様子や今後の予定をこまめにホームページ・ブログから情報発信を行うよう心がけ、少しずつ改訂を行っていった。
- ・地域の関係機関・関係団体との連携を深める。今年度は特に磯子区内の子育て支援拠点と各広場との会議を定期的で開催し、情報交換が活発に行われるようになってきた。

日時	月曜日～金曜日 10:00～15:00
場所	磯子区東町9-9 2階
主な従事者人数	4名
対象者	乳幼児親子
開所日数	234日
来所者数	1946組 4122名 (一日平均 8.3組 17.6名)
一時預かり利用数	210件 計 415時間 (月平均 17.5件 34.6時間)

②プレ教室 ぼっかぼか

- ・就園前の2～3歳児のこども対象のプログラムを実施。こどもだけで活動に参加する経験や家庭ではできない体験をすることを目的に、保護者もこども達もスムーズに幼稚園や保育園に移行できるように意識して、プログラムを構成し、事業を進めていった。
- ・保護者同士がプログラム終了後も助け合える関係作りを目指して、交流の場を作った。
- ・通ってきた親子からは、幼稚園就園に向けて情報を得られたこと、スタッフや保護者との関係が深まったことなど、参加してよかったという感想が多く聞かれた。きょうだい児で再び参加するケースも増えている。
- ・若者支援の取り組みについても理解を深めてもらおうと、法人の全体行事にも積極的に参加してもらい、子ども達の将来の不安も解決策も具体的に示していけるように意識して関わりをもったが、まだまだ十分ではなく、次年度への課題になっている。

日時	年間 全 40 回 (木曜日 10:00～11:30)
場所	磯子区東町 9-9
主な従事者人数	5名
対象者	乳幼児親子
登録予定人数	12名

③磯子まつりイベント 秋の親子フェスティバル

- ・磯子区補助金を受けて、乳幼児親子対象のイベントを開催。
- ・くすくすスタッフによる「大きなかぶ」の劇、講座「てがたあーと」縁日の催しを行い、地域の親子が楽しめるようなプログラムを提供。プレ教室に通う子ども達も練習を重ねて、ダンスの発表をおこなった。
- ・イベント運営には生徒や研修生も運営側スタッフとして動き、一緒にイベントを作り上げる体験を行うことができた。

日時	平成26年10月25日(土) 10:00~15:00
場所	磯子区東町9-9
主な従事者人数	13名
参加者数	乳幼児親子53組 153名

(5) 地域の子どもの居場所の提供・運営

①金沢区青少年地域活動拠点 カナカツ

- ・横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場や様々な体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営。
- ・1階フリースペース部分では地域の中高生向けに駄菓子屋販売を行い、居心地のよい空間でそれぞれの過ごし方をする姿が見られた。
- ・イベントにも力を入れ、利用している子ども達も一緒に準備を行い、秋まつり(162名参加)と春まつり(93名)には大勢の参加者が集まり、にぎわいを見せた。
- ・生きづらさを抱える若者を受けとめる就労研修の場としても機能していた。
- ・地域への啓蒙活動として、「思春期のこころと性」講座を実施。講師に性教育の第一人者である岩室紳也氏を招いて、主任児童委員、児童相談所や区役所職員、民間団体のスタッフなど26名に参加していただいた。
- ・近隣の学校に訪問、ビルの入居団体や地域の関係団体との連携を積極的に図り、金沢区施設連絡会、南部地域若者支援連絡会などにも参加し、金沢区民まつり「いきいきフェスタ」にも出店をおこなった。

日時	火曜日～金曜日 15:00～18:30 土曜日 13:00～18:00
場所	横浜市金沢区洲崎町6-2
主な従事者人員	3名
対象者	地域の小～中高生、地域の人たち
開所日数	243日
参加者	のべ8,854名
入居団体連絡会	隔月開催 全6回 4月25日(金)・6月27日(金)・8月24日(金) 10月30日(木)・12月19日(金)・2月26日(木)

(6) 放課後児童健全育成のための学童保育の運営

①ぼによぼによ学童クラブ

- ・横浜市在住のおおむね小学1～3年生までの児童で、保護者が仕事や病気、家族の介護のため、放課後に家庭での保育に欠ける児童を預かり、児童が放課後を生き生きと安心して楽しく遊び、学ぶ、豊かな育ちの場を提供。
- ・一人ひとりが第二の家として過ごせるような環境づくりに努め、また学校ではできない体験を多く取り入れることを意識して場づくりに努めた。
- ・給食の提供を行うことで、食事の大切さを知り、家庭的な温かい雰囲気を感じられるようにした。
- ・日々のミーティングに加え、週1回、臨床心理士などの専門家を交えてミーティン

グ・研修の時間を設定し、子ども達への具体的な対応を学び、よりよいサポート体制の構築のため、環境設定や保育の流れの改善を実施した。個々のスタッフのスキルアップをはかるための面談の他、今年度はメンバー全員で自由学園とその中のアフタースクールを見学に行き、学習の時間の持ち方やスケジュールの組み立て方などを参考にして、現場での取り組みに活かすことができた。

日時	月曜日～土曜日	11:00～20:00
	学校休業日	7:00～20:00
場所	横浜市磯子区東町 9-9 2階	
主な従事者人員	3名	
対象者	横浜市内の小学 1～3 年生までの放課後の保育に欠ける児童	
開所日数	249 日	
登録人数	11 名	
のべ参加人数	1,574 名	

②ぽによ+

- ・自主事業として、ぽによぽによ学童クラブ（補助事業）では受け止めきれない保護者の要請に対して、一時保育や日曜・祝日・夜間・宿泊対応、年中児・年長児の預かり等を行い、働く親が本当に困った時に具体的にサポートできるような体制作りを行う。多様なニーズに応えることで、預け先がなくて困っている親の不安を取り除き、保護者も子どもも安心して利用できる環境づくりに努めた。
- ・放課後の時間帯に習い事ができるように、ぽによ塾のピアノ教室・英会話教室を運営。
- ・一つ一つの事例を大事にしながら、その次に活かしていけるように振り返り、気づいた点や不備を改善しながら積み重ねて行った。
- ・規模が拡大する中で、改めて自分たちの役割を考え、自主事業化に向け、準備を進めた。保護者に対しては保護者会や面談の中で丁寧に説明を行い、理解を求めていった。

日時	終日（必要に応じて対応）	
場所	横浜市磯子区東町 9-9 2階、その他	
主な従事者人員	3名	
対象者	横浜市内の小学 1～6 年生までの児童	
開所日数	293 日	
利用人数	9,549 名	
緊急対応実績	37 件（うち 宿泊 12 件）	
ぽによ塾	ピアノ	登録 12 名・のべ 432 名
	英会話	登録 15 名・のべ 510 名

(7) その他の事業

①市民活動・相談窓口事業

- ・横浜市市民活動支援課から委託を受け、認定 NPO 法人としてこれから市民活動を始めようとしている団体や活動をしている団体の相談等を受け付ける事業を開始。今年度は 11 月から開始し、電話相談が 2 件寄せられ、必要な助言・情報提供を行った。

日時	月曜日～金曜日	10:00～17:00
場所	横浜市磯子区東町 9-9	
主な従事者人員	2 名	
対象者	地域の市民活動団体・NPO 法人等	
実績	2 件	

②実習生の受け入れ

- ・社会福祉士などを目指す学生の実習の受け入れを行った。
- ・いろいろな部署での受け入れを通して、理念や目指している方向性を知ってもらえるように毎日、振り返りを行い、イベントにも積極的に参加していただいた。

日時	8月～9月
場所	横浜市磯子区東町9-9
主な従事者人員	1名
対象者	社会福祉等を学ぶ大学生
実績	神奈川県立保保健福祉大学3年生 1名

<主な行事> ※大きな行事や行政との連携を中心に記載。

4月1日(火)	入社式/入所式・防災訓練・お花見
4月15日(水)	磯子区NPO連絡会 参加
4月21日(月)	自立援助ホームホーム長研修 参加/ユースプラザ合同調整会議 参加
4月22日(火)	自立援助ホーム全国協議会総会 参加
4月25日(金)	カナカツ音楽コンサート 開催
5月1日(木)	はっちネット 参加/児童福祉部会 参加
5月13日(火)	いそごひろば連絡会/意見交換会 参加
5月29日(木)	南部地域若者支援連絡会
6月6日(金)	第31回理事会 開催
6月11日(水)	親と子のつどいの広場Bブロック会議
6月16日(月)	はっちネット 参加
6月17日(火)	根岸・滝頭地区子育て支援連絡会
6月20日(金)	第27回総会 開催
6月22日(日)	思春期セミナー講師(つづきMYプラザ)
6月24日(火)	金沢区施設連絡会 参加
6月28日(土)	ぽによぽによ学童クラブ・ぽによ+保護者会 開催/不登校セミナー 開催
7月8日(火)	横浜市子ども・子育て会議 子育て部会 委員として参加
7月9日(水)	児童相談所 意見交換会
7月11日(金)	横浜市子ども・子育て会議 子育て部会 委員として参加
7月14日(月)	つどいの広場全体連絡会 参加
7月25日(金)	はっちネット 参加
7月25日(金)～26日(土)	ぽによ宿泊キャンプ
7月28日(月)	互立ネット 参加
7月30日(水)	南部地域若者支援連絡会研修会 開催
8月1日(金)	横浜市子ども・子育て会議 子育て部会 委員として参加
8月23日(土)	K2夏祭り開催
8月28日(木)	横浜子ども支援協議会 参加
9月4日(木)	はっちネット 参加
9月8日(月)	3機関連絡会 参加
9月9日(火)	いそごひろば連絡会/地域別子育て支援連絡会 参加
9月11日(木)	はっちネット 参加
9月27日(土)	不登校セミナー 開催
9月30日(火)	横浜市子ども・子育て会議 子育て部会 委員として参加
10月1日(水)	はばたき(横浜市一時保護所自立支援部門)との意見交換会 参加
10月4日(土)	保護者のつどい(市教育委員会行事)活動紹介・相談対応
10月7日(火)	南部地域若者支援連絡会
10月8日(水)	磯子区自立支援協議会 参加
10月16日(木)	横浜市子ども・子育て会議 子育て部会 委員として参加
10月19日(日)	ひろば情報交換会
10月20日(月)	磯子区NPO連絡会 参加/ユースプラザ合同連絡調整会議 参加
10月21日(火)	磯子区子育て支援連絡会 参加
10月22日(水)	横浜子ども支援協議会 参加
10月23日(木)	「思春期のこころと性」講師:岩室紳也氏 開催
10月25日(土)	秋の親子フェスティバル 開催

10月30日(木) 自立援助ホーム対象アレルギー研修 参加
 11月6日(木) はっちネット 参加
 11月7日(金) 金沢区寄り添い事業定例会議
 11月17日(月) 3機関連絡会 参加
 11月20日(木) 福祉保健センター研修会
 11月22日(土) ぽによぽによ学童クラブ・ぽによ+27年度入会説明会・保護者会 開催
 11月25日(火) 親と子のつどいの広場 Bブロック会議
 11月26日(水) いそピヨへの出張講座 開催
 11月27日(木) ぽによ塾ピアノ発表会 開催
 12月8日(月) 親と子のつどいの広場 Bブロック研修会 参加
 12月9日(火) いそごひろば連絡会 参加
 12月16日(火) 磯子区NPO連絡会/南部地域若者支援連絡会研修会
 12月22日(月) こども子育て部会
 12月23日(火) クリスマスフェスタ
 1月6日(火) こども子育て部会
 1月19日(月) 3機関連絡会
 1月20日(火) 磯子区NPO連絡会
 1月22日(木) 地域活動拠点連絡会
 1月23日(金) こどもの事故防止研修
 2月1日(日) 横浜市青少年局学童クラブ対抗ドッジボール大会
 2月2日(月) 一時預かり実施広場情報交換会 参加
 2月3日(火) いそごひろば連絡会 参加
 2月9日(月) 磯子区子育て支援連絡会 参加
 2月18日(水) 親と子のつどいの広場 Bブロック会議 参加
 2月23日(月) 自立援助ホーム研修会 参加
 2月24日(火) 磯子区NPO連絡会 参加/自立援助ホーム研修会 参加
 2月25日(水) 居場所連絡会(ふりーふらっと野毛山) 参加
 2月28日(土) 不登校セミナー 開催
 3月3日(火) 根岸・滝頭地区子育て支援連絡会 参加
 3月4日(水) 親と子のつどいの広場全体連絡会 参加
 3月5日(木) カナカツ春まつり 開催
 3月6日(金) ぽによ修了式 開催/カナカツ春まつり開催
 3月7日(土) いろは 進級・進学お祝い会
 3月12日(木) 南部地域若者支援連絡会 開催
 3月14日(土) ぽによぽによ学童クラブ・ぽによ+保護者会 開催
 3月16日(月) 児童福祉部会 参加
 3月17日(火) キャンパスタウンフォーラム 参加
 3月25日(水) 自立援助ホームと児童相談所の意見交換会 参加

<助成実績>

- *神奈川県委託事業 フリースペース等事業費補助金(不登校相談)
- *児童自立生活援助事業 自立援助ホーム
- *横浜市地域ユースプラザ事業(よこはま南部ユースプラザ)
- *横浜市青少年の地域活動拠点づくり事業 金沢区青少年の地域活動拠点)
- *金沢区寄り添い型学習等支援事業(横浜いろは塾)
- *横浜市補助事業 親と子のつどいの広場(子育てスポットくすくす)
- *横浜市放課後児童健全育成事業(ぽによぽによ学童クラブ)
- *いそごふれあい助成金
- *磯子まつりイベント助成金